

現象学研究会

テーマ: 現象学運動の解明

研究の課題

現象学の展開を、彼らに影響を与えた思想(ギリシア哲学、精神分析など)も視野に含めながら解明すること。

研究の成果

1. プラトン(ギリシア哲学)の善の思想(『国家』参照)と現象学。善が存在を超越していること(存在の彼方)をレヴィナスは肯定的に受け取っている。

2. 精神分析と現象学。今回はフロイトの『症例シュレーバー』に焦点を当てた。フロイトによればシュレーバーの症状は「父性コンプレックス」で解釈可能ということだが、こういった精神分析的解釈自体が現象学では問いに付されていること(リシール『射影する現象学』参照)。

3. 現象学そのものの展開。フッサールの間主観性に関するテキスト(Hua XV)、フインクの現象学的言語に関する問い(『第六省察』)、ディディエ・フランクのニーチェに依拠した現象学の乗り越え(「現象学を超えて」)、そしてリシールの現象学の鑄直し(フッサールの志向性から空想へ)に関するテキストの詳細な読解(「現象学の鑄直し」)。

以上成果はこれらの研究によって現象学運動の展開を理解できたことである。

今後の課題

さらなるテキスト読解に励むこと。